



令和4年度

子供主体の保育普及促進事業
活動報告書

目次

I 事業概要	p.02
II アドバイザー派遣事業	p.03
III 参加園における取組	p.04
IV シンポジウム	p.36
V セミナー・交流会	p.42
VI アドバイザー総括	p.50

I 事業概要

事業目的

東京都では、自然を活用した保育の中で子供の主体性や想像力、思考力などの「生きる力」を育むことを目指し、令和元年度～2年度に「自然を活用した東京都版保育モデル事業」（以下「モデル事業」という。）に取り組んできた。今年度は、モデル事業の考え方を踏まえ、都内保育所等へのアドバイザー派遣や、広く都民に向けた活動報告会やシンポジウム、保育所等職員向けのセミナー・交流会を開催することにより、子供主体の保育への理解を深めるとともに、保育の現場における実践及び保育の質の向上につなげることを目的に事業を実施した。

事業内容

■ アドバイザー派遣事業

モデル事業に関する専門知識、ノウハウ及び経験を有するアドバイザー（以下「アドバイザー」という。）を都内保育所等へ派遣することで、子供主体保育への理解と実践を支援。



派遣アドバイザー
 ◀ 野村 直子 さん
 一般社団法人 new education
 Little Tree 代表



久保田 修平 さん ▶

事前打合せ（現状把握）

園長と担当保育士から、園の様子や考え方について、基本情報の聞き取りを行う。現在の保育指導の様子や、保護者との対応など、園の課題や不安などを聞き、今後の事業実施予定について説明。

導入研修（目線合わせ）

アドバイザーによる導入研修。子供たちとどのように向き合い活動しているのかを聞きながら、園の周辺にどのような屋外環境があり、どのように過ごすかを、一緒に考える。

保育同行（1～3回目）

近隣の公園などでの活動に同行。活動終了後に、保育者との振り返りを実施。

■ 活動報告

アドバイザー派遣により、どのような変化や気づきがあったか、参加園ごとに振り返りを実施。参加園の保育者等とアドバイザーの話し合いを通して、子供との関わり方のポイントや日頃の疑問等に対する助言等を行った。

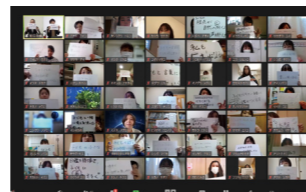
■ シンポジウム

アドバイザー派遣参加園の保育者より活動事例の紹介を行い、有識者から助言や意見等を伺うとともに、アドバイザーと有識者によるパネルディスカッションを実施することで、子供主体の保育に関する理解を深め、普及啓発等を実施。



■ セミナー・交流会

アドバイザーによるセミナーや、グループ討議などによる参加者同士の交流会を実施。日々の保育の参考となるポイントや具体的な事例紹介等を通して、具体的なイメージの醸成を支援。



活動報告、シンポジウム、セミナー・交流会のアーカイブ動画を、東京都福祉保健局で公開中

東京都福祉保健局ホームページ ▶ https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/koho/kodomo_syutai.html

II アドバイザー派遣事業

概要

■ 期間

令和4年7月～11月

■ 参加園

区市町村名	取組参加園名	施設種別	実施クラス
渋谷区	株式会社テノ. コーポレーション ほっぺるランド渋谷	認可保育所	3～5歳児クラス
練馬区	ライクキッズ株式会社 にじいる保育園石神井町	認可保育所	5歳児クラス
江戸川区	株式会社ポピンズエデュケア ポピンズナーサリースクールー之江	認証保育所	3～5歳児クラス
小金井市	学校法人村田学園 小金井けやきの森認定こども園	幼保連携型 認定こども園	5歳児クラス
狛江市	社会福祉法人純生喜伯会 一の橋赤ちゃんの家	小規模保育事業	1～2歳児クラス

■ 導入研修について

子供主体の保育実践を自然環境の中で行ってみることを説明し、自然を活用する保育の考え方や関わり方のヒントを研修で伝えた。

その後、「子供主体の保育」についての認識や自然を活用する保育等について、どんなことができそうか等を話し合った。



「子ども主体の保育普及促進事業」導入研修資料 文責:野村直子

1: この事業が目指すこと
 自然環境を活用して、子供主体の保育を促進すること。各園ならではの取り組みの工夫と一緒に検討していき、自然環境だけでなく、室内保育等でも応用できるようにしていく。

2: 自然の中で体験的な学びを促す
 自然の中で子どもの姿を捉える視点として、「感性的な体験」と「力試しの体験」

①感性的な体験: 静の活動（内面的な体験）
 子どもとの出会いの中で生まれる「なんだろう？不思議だな」という心の動き。
 五感が刺激され生まれる、「感じる”体験”

②力試しの体験: 動の活動（動きとして現れる体験）
 子ども自身が自分で選ぶ、冒険的なチャレンジや力試しをするような活動
 危機感（ドキドキ・ヒヤヒヤ）の体験から自分の力を知る
 達成感を味わったり、成功体験・失敗体験から次への成長が促される

3: 自然の中での関わり方のポイント
 ベースは安心・安全の場。心と身体の安全があるから、子どもの自発的な活動が保障される
 その上で、保育者の3つの関わり方のヒント

- ①黒子であり応援者
子どもの思いを応援し黒子のように環境を整える
- ②自然と子どもの橋渡し
一緒に自然を発見し、面白さや不思議さを共有
- ③ファンリテーター
「気づき」から変化や成長を促す役割

4: 安全に対する認識
 「学びにつながるリスク」と「絶対に体験させてはいけない危険」
 守るだけではなく、子ども自身で危険を認識し、安全を判断する力を育みたい。
 →小さな怪我やトラブルは、子どもたちの成長の糧となる

5: 自然を活用した保育のヒント
 *場所によっては違いがあるため、活用しやすい場所を調査しておく
 例: 冬、南向きで風が通りにくい暖かい場所 → 休憩をする場所に最適
 夏、木が茂っていて、日陰が多い場所 → 雨の日も最適
 秋、落ち葉がたくさん落ちる場所 → 落ち葉プール作りなど乳児にも適している
 見通しが良く、広い原っぱのような場所 → 新年度など子どもが慣れていない時に最適
 *季節によって変化する自然環境を記録しておく
 例: 春に咲く花（桜の木）の場所をお散歩マップに書き込む
 *年間や月間計画書の中に、季節の自然物を記載→書き溜めておく→計画の目安になる
 *2通りのお散歩の仕方
 山登りにも山頂を目指すものと、ハイキングのように平行移動を楽しむものがある
 お散歩も「道草を楽しむ方法」と、「目的地を楽しむ方法」の2通りある

